

議 事 録

件 名		第3回 町田市下水道ビジョン策定懇談会
日 時		2011年2月17日(木) 14:00～16:00
場 所		成瀬クリーンセンター 新館会議室
出席者 (敬称略)	委 員 *:会長	高千穂 安長委員*、長岡 裕委員、松本 暢子委員、 市古 太郎委員、盛永 久恵委員、石川 旭委員、 渡辺 洋委員 (欠席) 松田 英行委員
	上下水道部	鈴木部長、工務課 福田課長、業務課 石井課長、 水質管理課 細野課長、水再生課 河原課長
	事 務 局	上下水道総務課:須原担当課長、川畑係長、町田主査、 保屋野、野沢
次第	1 下水道ビジョン案について(前回からの修正箇所) 2 下水道ビジョン案について(第4章「施策の展開」) 3 策定スケジュールの変更について	
	議 題	
次第 1 下水道ビジョン案について(前回の修正)		
報告内容	■前回の下水道ビジョン案からの修正点について説明を行った。	
意見等	■ビジョンの前段のところで、これまでの下水道事業の成果(アウトプット)をまとめておくのと分かりやすいのでは。	
	■P.13の図12だが、使用料と処理コストの関係がもっと明らかになるよう、表現等を検討願いたい。	
	■ゲリラ豪雨への対応を考えた場合、浸水対策の30年後の姿は物足りないのでは。 →50mm/hの雨に対応する雨水管整備をしているが、汚水管整備を優先してきているので浸水対策はあまり進んでいないのが現状。30年後までには まずは50mm/hへの安全を確保したいと考えている。	
	■雨水管の計画は50mm/hの雨での浸水被害を防ぐことを目標にしているが、実際は雨量が少なくても短時間で降れば被害は発生することから、市民がイメージしやすいように分かりやすく説明する必要があるだろう。	
	■基本理念の基となるものや施策が7つになった背景を第3章の前に整理しておくのと、後のつながりが良いのでは。	
	■施策の目標と30年後の姿にギャップがあるものがいくつかある。特に、「持続可能な下水道財政の確立」だが、独立採算が可能なら民営化できるのではないか。	
次第 2 下水道ビジョン案について(4章施策の展開)		
報告内容	■下水道ビジョン案(4章施策の展開)について説明を行った。	
意見等	(住環境の改善)	
	■未整備箇所とはどのようなところか。また、未接続家屋とは別なのか。 →道路整備が予定されている都道周辺や低地が未整備となっている。未接続家屋とは、下水道は整備されたが下水道につないでいない家屋のことで、未整備とは別ものである。	

■P.24とP.53で管きよの耐用年数が違っている訳は。

→国庫補助の基準として国が定めた耐用年数は50年で、全国の更新実績から算出した耐用年数は72年と約1.5倍近く長持ちしている。費用比較では実態に近い72年を用いて算出した。

■なぜ、市街化調整区域の汚水処理施設整備を行うのか。

→現在の下水道整備計画では市内全域が下水道整備区域となっており、そのうち市街化区域の整備を行っているのが現状。調整区域を流れる水路の水質を調査した結果、あまり良くない実態があり、時代の変化を踏まえ全域を下水道で整備するのではなく、最適な汚水処理施設で整備したいと考えている。

■汚水管整備と浄化槽整備とを線引きするにあたっては、市民の理解が得られるかが重要。

→区域を分けるにあたっては、必要な整備費及び維持管理費を実態に即した形で積み上げ、経済性で線引きを行うこととなる。市街化調整区域の下水道整備にあたっては、新たに都市計画決定が必要となることから、住民の意見を聞き理解を得ながら進めていくこととなる。

■財政状況は今後も厳しいことが予測され、また人口も減少していくといわれているなかで、市街化調整区域の汚水処理施設整備に踏み出すにあたっては、慎重に考えて進めていくことが必要である。

(河川の水質向上への貢献)

■水質を向上させるには、設備投資とともに処理コストも高くなるということを伝えるべき。

■市民の協力によって処理コストが下がるという内容が入れられると、協力を得やすいのでは。

→どの様な表現ができるかわからないが、検討したい。

■エコたわしを使うことで、洗剤の使用量が減るし茶渋もとれる。さくらまつりなどでキャンペーンをするのも良いと思う。

(地球温暖化対策と資源の循環利用)

■30年後の姿を「環境を配慮した下水道」とすると、現状ではできていないのかという疑問が出る。

例えば、「より環境に配慮した下水道」とするだけでも違うと思うが。

→指摘の通りであるため、表現を修正する。

■表現が専門的で、市民に分かりにくいところが多い。

→正確に伝えようとした結果、専門的になってしまい、かえって伝わりづらくなってしまった。表現等を再検討する。

■第1計画期間のCO₂ 6%削減の達成は勿論のこと、それ以上減らし、CO₂取引制度を使って収益をあげる様なことも考えてみてはどうか。

(浸水対策の推進、地震対策の推進)

■予防的な内容が多いが、被害発生後の「迅速な復旧」についてもきちんと記載して欲しい。

→現在、庁内でBCPを策定しており、その次の段階で下水道のBCPを策定する予定である。

■BCPを策定し、被害発生時に速やかに対応することによって、どの程度早期に現状普及できるのかも明らかにして欲しい。

→BCPの具体的な説明を付け加える中で検討したい。

■P.41の図26に関して、総合的な取り組みで50mm/hを目指すというのは分かるが、公助でどの程度受け持つのかという目標を示すことはできないか。

→雨水対策は、まずは30年間で19箇所の浸水被害対策地区を解消し、そして市内全域で50mm/hの雨での安全を確保することを目標としており、市内全てを50mm/hの雨水管整備するわけではないことから、数値で示すのは難しい。

意見等	■時間降雨を目標にするのではなく、P44の図28にある浸水被害箇所922箇所を減らすという目標を立ててはどうか。 ■雨の規模や浸水の危険度などを目標にした方が、市民がイメージしやすいだろう。 (効率的・効果的な維持管理の推進) ■30年後の姿がイメージできない。そもそも現状で突発的な事故はたくさん発生しているのか。 →他市と比べ町田市は突発的な事故は少なく、それをさらに減らすという目標としたが、再検討したい。 ■P.56の表6に「詳細検討中」とあるが、いつ頃結果が出るのか。 →今年度委託で検討しており、次回の懇談会には方向性を出す予定である。 (持続可能な下水道財政の確立) ■人材育成や下水道のPRなど広く検討しているにも関わらず、タイトルが「下水道財政」となっており違和感を感じる。例えば「下水道事業」とした方が良いのでは。 ■現状の官庁会計で不都合があつて、公営企業会計を導入することで経営の強化につながるという根拠を明らかにしてもらいたい。
次第 3 策定スケジュールの変更について	
報告内容	■当初は、ビジョン、アクションプランともにパブリックコメントにかける予定でいたが、ビジョンのみとしたことで、若干時間的に余裕があるスケジュールとなった。 ■次回の懇談会は3/22(火)に予定している。また、パブリックコメント前のビジョン案をまとめる懇談会を4月末に予定している。